

古文書にみる
「丹波篠山の土産あれこれ」

日本農業遺産認定

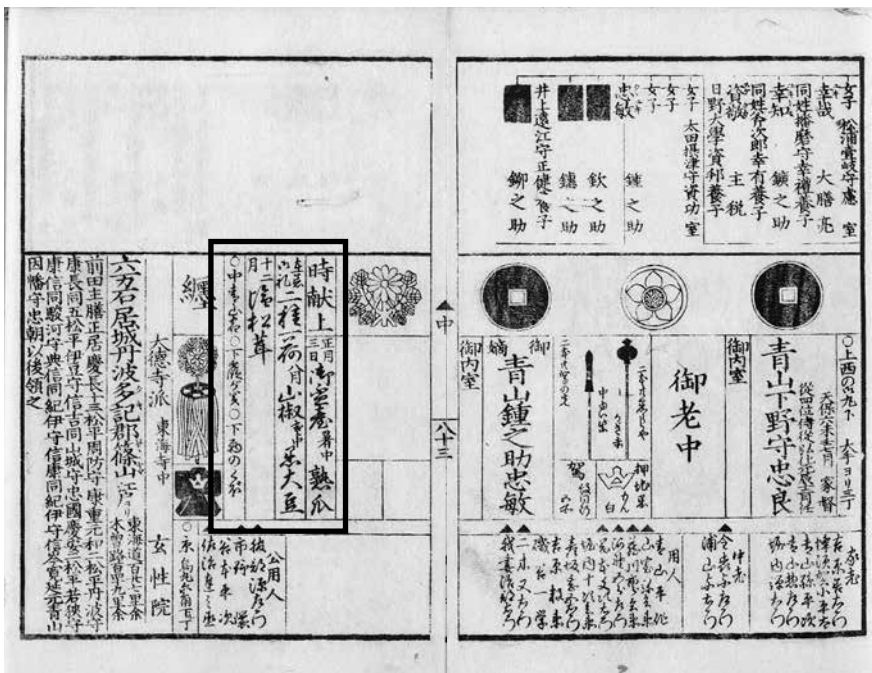
丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

お殿様にも献上！丹波篠山の黒大豆

江戸時代に、日本全国の大名は治める領地内の「産物」を徳川將軍家に献上していました。この中でも季節ごとに贈るものを「時献上」といいました(2月、暑中、8月、寒中、12月)。現在のお世話になった人に贈り物をするお中元やお歳暮に似ていますね。

では、この時献上として、篠山藩からは何が贈られていたのでしょうか？

島原作夫さんの研究によると、1771年(明和8年)から1838年(天保9年)までには「漬松茸・塩松茸、熟瓜(マクワウリ)、丹波栗」などが贈られ、1846年(弘化3年)と1856年(安政3年)には「黒大豆」の時献上の記録が残っています。



出典：弘化武艦4巻、1846年、国立国会図書館デジタルコレクション

現在、丹波篠山市から東京まで3、4時間もあれば移動できますが、江戸時代は13日程度かかったそうで、松茸も保存食にして贈る必要がありました。当時の様子が分かる面白い史料ですね。



参考文献

島原作夫(2016年)篠山藩における黒大豆の献上までの道のり、豆類時報(83)、p.28-41